

はじめに

ナラ枯れは、病原菌をもったカシノナガキクイムシが樹木に穿孔して繁殖することで枯死が発生する、樹木の病気です。1980年代後半から日本海側で発生して以来、終息することなく全国各地に広がってきました。これに対して、研究者を中心とした多くの関係者の尽力により、森林管理を基本とした発生予防方法、被害木の駆除などの防除方法が提案され、試験研究機関等において多くの対策マニュアル等が発行されてきました。

これらマニュアル等を参照して、地方自治体、ボランティアやNPOなどの市民団体が森林管理やナラ枯れ防除に取り組んでいます。しかしながら、2023年には北海道でもナラ枯れ被害が確認されたように、北方寒冷地への被害拡大が進んでいます。また、関東地方では、山間部よりも都市域の公園や緑地といった人の生活圏での被害が拡大してきました。こうした中、寒冷地や人の生活圏におけるナラ枯れ対策については、既存のマニュアル等では対応できないといった声も聞かれるようになりました。

一方、近年国産広葉樹材の需要が高まっています。広葉樹材のうち、ナラ類、シイ・カシ類は今後も少なからずナラ枯れ被害を受け続ける可能性があります。ナラ枯れの発生を前提に、広葉樹材を活用していくための技術や知見が必要になってきています。

そこで、With/Post ナラ枯れ戦略コンソーシアムは、生物系特定産業技術支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（体系的番号 JPJ007097）「With/Post ナラ枯れ時代の広葉樹林管理戦略の構築」（課題番号 04021C2）のプロジェクトにおいて、寒冷地や人の生活圏で拡大するナラ枯れ対策を開発・集約するとともに、ナラ枯れを把握しつつ広葉樹林を管理するための技術や知見について検討し、その成果をこの小冊子として取りまとめました。ナラ枯れ対策の一環として、広葉樹林をどのように管理・活用していくかを考えていただくとともに、既存のマニュアル等とあわせて本小冊子を活用していただけると幸いです。

With/Post ナラ枯れ戦略コンソーシアム

代表機関 国立研究開発法人森林研究・整備機構

研究統括者 森林総合研究所企画部研究企画科 北島博

表紙写真

茨城県で2020年に初めて確認されたつくば市内の公園でのナラ枯れ（被害樹種コナラ）

関東地方平野部では、市民の憩いの場であり、子供の遊ぶ広場もある都市公園において、コナラやマテバシイの大木が枯れる被害が見られた。2020年9月つくば市洞峰公園にて撮影（松本剛史）。